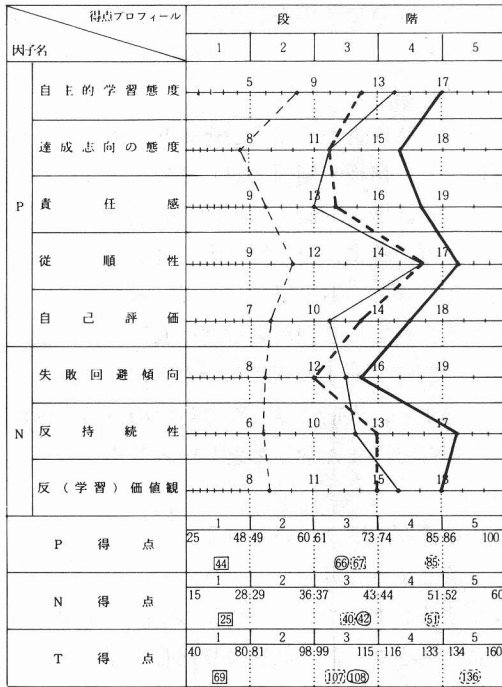


事例6 小学6年F児(男子)

1. 学習意欲検査からみた児童像



—○— 58年1月14日 } 自己評価 - - - □ - - - 58年1月14日 } 他者評価
 —○— 58.12.7 } 自己評価 - - - □ - - - 58.12.7 } 他者評価

- 本人の評価では、自主的学習態度があり、従順性があると評価しており、素直さがみられる。反(学習)価値観も高くみている。責任感、自己評価は低くみている。
- 教師の評価では、本人のプロフィールと相似しているが、教師のプロフィールの方が、本人のプロフィールより全体に低く、本人のように突出した因子もみられない。素直さがあるようにはみえていない。

2. 学習意欲の背景

- 知能・学業
 教研式知能検査SS38. IQ81 (4年時)
- 性格検査(YG) D型
 情緒は安定しており、活動的である。思考的活動はやや苦手であるが、協調的である。
- 不安傾向診断検査(GAT)
 学習不安傾向、自罰傾向、衝動傾向がある。

(4) 親子関係診断検査など

父親は、子供を期待通りに育てようとしながら、心配や不安を抱き、過度の援助や保護を与えがちで、感情的に対応しがちである。母親は、自分の要求を過度に押しつけがちで、子供を無視したり、放任しがちである。

(5) 担任の所見

意欲に波があり、お天気屋である。個別に出す宿題はよくやるが、未提出の時もある。努力はしているが効果はあまりあがっていない。

3. 心理的治療の仮説と方法

教師の指示にも素直に従う従順性を基盤に、自主的学習態度、達成志向の態度、持続性を高めれば学習意欲は高められる。それに伴い、責任感、自己評価も高めることができる。

- 教師と本人との信頼関係をさらに深める。(カウンセリング的アプローチ)
- 特に、算数科を中心にして、達成目標を本人の力に合ったものとし、成就感、達成した喜びを味わわせることによって学習意欲を高める。(行動療法的アプローチ)
- 学習場面全体の中で、本人の意欲を高める賞詞を一日に一度は与え、がんばった姿を認めてやる。(行動療法的アプローチ)
- 学習意欲検査についての本人の評価と教師の評価との差について、その要因を明確にし本人の自己理解を深める。(カウンセリング的アプローチ、ロール・プレイング)
- 両親へは、本人の適性・能力・希望に合った養育ができるようにアプローチする。(カウンセリング的アプローチ)

4. 治療の実践

- カウンセリング的アプローチ
 ○ 5年生の後半から6年生にかけて、教師が本人と接触してきたため親密感が出てきた。しかし、時々嘘をつくことがあったので、その都度カウンセリングをしてきた。最近は嘘もなくなり、親密感が増してきた。